



令和7年 6月号 園だより

江戸川区立船堀幼稚園

—教育目標—
元気な子ども
明るい子ども
考える子ども
思いやりのある子ども

園長 東 美和

～自然との直接体験からの学び～

毎朝、正門で子どもたちを迎えていると「おはようございます！」と元気に挨拶をする子もいれば、小さな声ですが笑顔で挨拶をしてくれる子もいます。様々な姿がありますが、幼稚園の生活を楽しみにしている様子が見られ、嬉しさを感じています。

さて幼稚園には、自然との直接体験をできる場がたくさんあります。先日園庭の畑やプランターに、子どもたちはいろいろな野菜を植えたり、花の種をまいたりしました。年少組はナスやピーマンの苗を初めて見た子がほとんどだったようです。苗を植える時に土に触れたり、草花に水をあげたりすることを楽しんでいます。年長組は一人一鉢のミニトマトを育てています。毎日の世話をする中で、「黄色い花が咲いたよ」「緑の実がなってる！」と自分の気づいたことを友達や教師に話している声が聞こえます。実際に植物を育てることで「野菜はこうやって大きく育つ」「どんな色の花が咲き、実がなるのか」と変化やその不思議さに気付き、植物の生長を知ることに繋がっています。

園庭ではダンゴムシを探す子どもたちがたくさんいます。「ダンゴムシはどこにいるのかな？」と花壇を上から覗いていても見つかりません。それでも「見つけたい！」と思い、咲いている花の根元や葉をかき分けるとようやく見つかります。その探し方に気付くと近くにいる友達にも伝わります。また年長になると「ダンゴムシの食べ物は何だろう？」「飼うためには、どんなお家にすればいいのかな」と図鑑や絵本で調べて、新しい知識を得るおもしろさを味わえます。

子どもたちは身近な自然と直接関わり、自然の不思議さに「なぜ」「どうして？」と気付くことが知的好奇心や探究心、そして思考力の育ちにつながります。子どもたちは幼稚園での遊びや生活の中で、たくさんの学びの芽が育っていることを感じています。

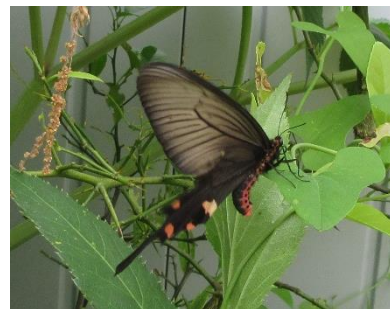
幼稚園では「虫」が来てくれるような工夫をしています。例えば、チョウチョは種類によって食べる葉が違います。砂場の横ではウマノスズクサという植物を育てています。これはジャコウアゲハというチョウチョが食べる植物です。先日、越冬したと思われるジャコウアゲハが砂場横を飛んでいました。これからの時期、自然からの学びを楽しみましょう。



ダンゴムシはどこにいるかな



野菜にお水をあげよう



ジャコウアゲハが飛んできました